

## Life Design Focus

# 禁煙したい人をどうサポートするか

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 研究開発室 小谷 みどり

### <ここ数年、喫煙率は横ばい>

世界で最もたばこの価格が高いオーストラリアで、来年から4年間、たばこ税が毎年12.5%ずつ値上がりすることになった。銘柄や州によって価格は異なるが、現在1箱25ドル（約2,000円）のたばこは、2020年には40ドル（約3,200円）になる。

2012年には、世界に先駆けて、健康被害を警告するグロテスクな写真をたばこの箱に大きく表示させる規制を導入し、テレビのCMでも同様の警告を頻繁に流している。喫煙できる場所も厳しく制限されており、基本的に建物の中では禁煙なので、喫煙室は設置されていないし、バーやクラブでも吸うことはできない。

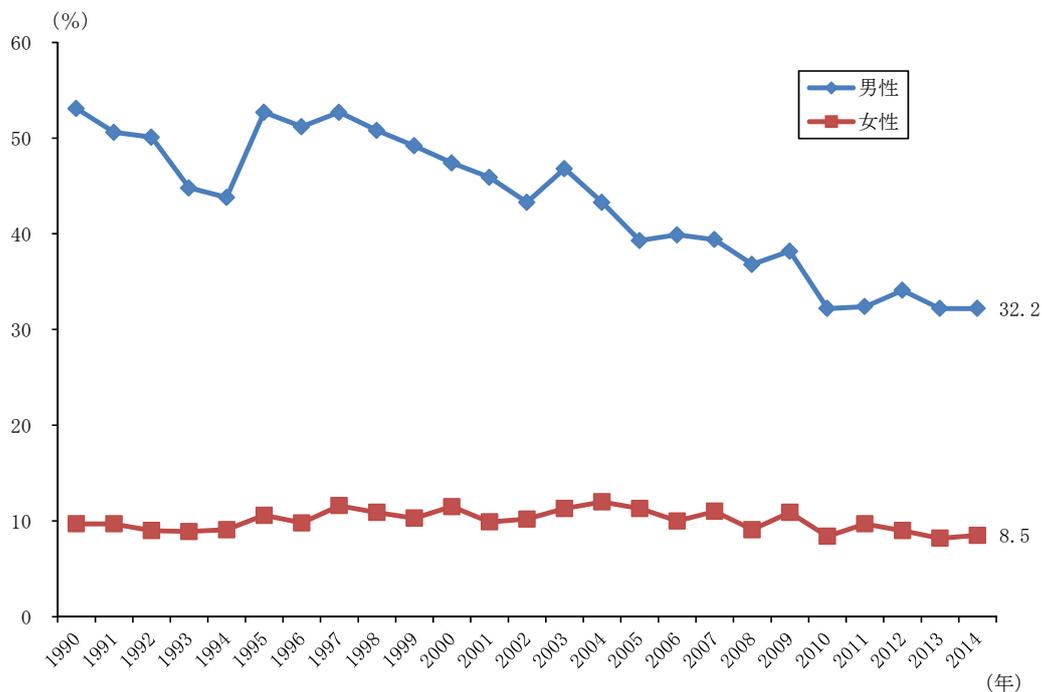
こうした取り組みが功を奏し、1991年には25.0%あった喫煙率は2013年には13.3%にまで減少しているが、オーストラリア政府は2018年までに10%にするという目標を掲げている。

同様にニュージーランドでも、来年から毎年10%ずつたばこ税が引き上げることが発表された。ニュージーランドの喫煙率は15%だが、政府は2025年までに禁煙国家になるとの目標を掲げている。

一方、日本ではどうか。厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査結果の概要」によれば、たばこを「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と回答した人は19.6%だった。性別で見ると、男性では32.2%、女性では8.5%で、女性の喫煙率は男性に比べると低いものの、年次推移で見ると、この25年間、ほぼ横ばいになっている（図表1）。男性の喫煙率は、1990年には53.1%だったので、全体では20ポイントも減少しているものの、女性と同様、ここ数年は横ばいであることが分かる。

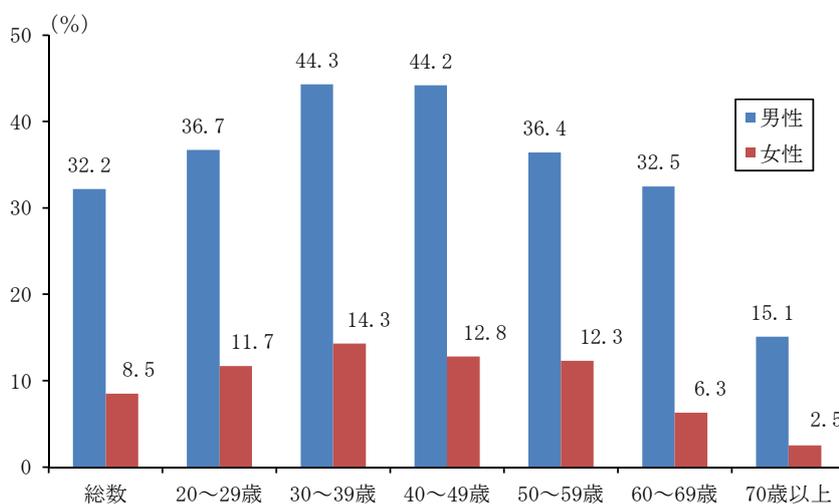
2014年の喫煙率を性・年齢別にみると、男女ともに30代、40代で高い（図表2）。30代女性では14.3%と、7、8人に1人が喫煙している計算になる。

図表1 喫煙率の年次推移



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

図表2 性・年齢別喫煙率



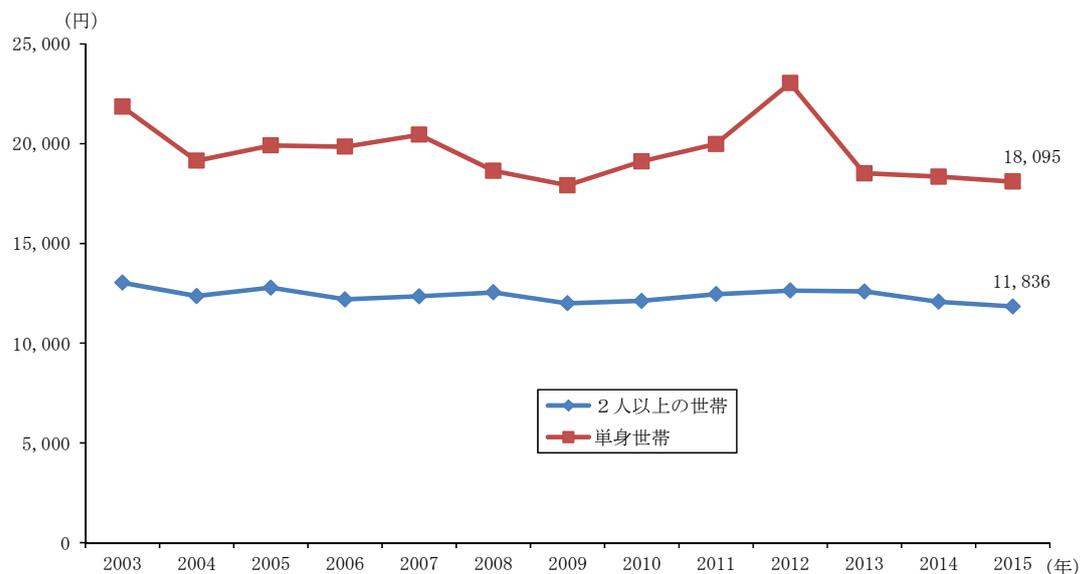
資料：厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査」2015年

<単身世帯でたばこ支出額が多い>

総務省「家計調査」によると、たばこにかかる年間支出は単身世帯が2人以上の世帯より多く、2015年では18,095円を支出していた(図表3)。年次推移をみると、単身世帯、2人以上の世帯ともに、この15年間で微減しているものの、大幅に減少しているわけではない。

ちなみに日本では、2010年10月からたばこ税が大幅に引き上げられ、たばこの価格が値上がりした。2011年、2012年あたりで年間支出が微増しているのは、その影響によるものと思われる。

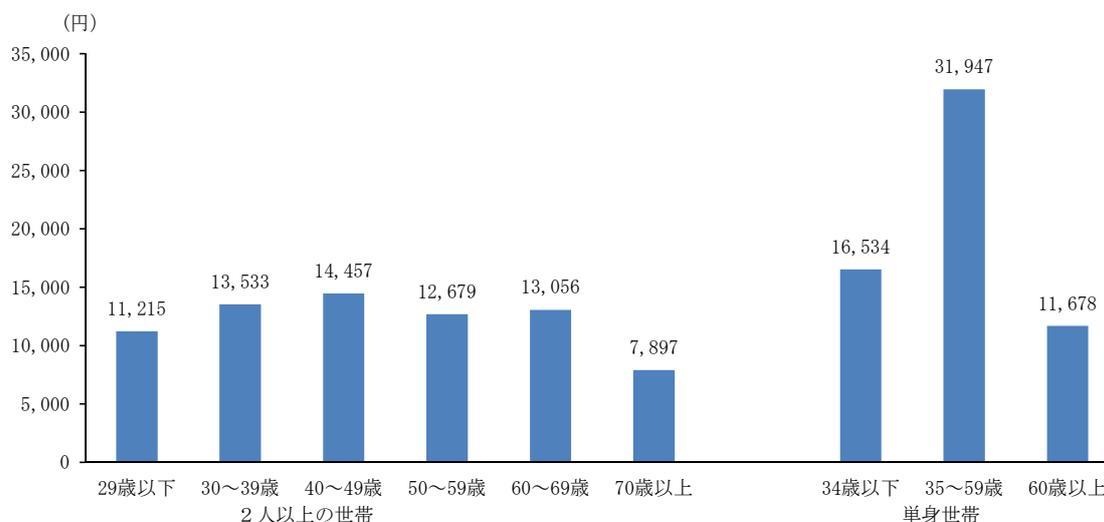
図表3 世帯構成別のたばこ年間支出



資料：総務省「家計調査」各年次

次に2015年のたばこ支出を世帯構成・年齢別にみると、35～59歳の単身世帯が31,947円と突出して多く、同年代の2人以上の世帯の倍以上も支出している（図表4）。

図表4 世帯構成・年齢別のたばこ年間支出



資料：総務省「平成27年家計調査報告」2016年

### <たばこをやめたい人の支援>

2003年の健康増進法の施行や、2005年の「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の発効」などにより、日本でも喫煙できる場所は徐々に減少している。愛煙家への社会の風当たりも強くなっている。

このようななか、たばこをやめたいと思っている人はどのくらいいるのだろうか。前出の「国民健康・栄養調査」によれば、2014年調査でたばこをやめたいと思っている喫煙者は、男性で26.5%、女性で38.2%いた。たばこをやめたいと思う人は多いわけではない。

しかし製薬会社ファイザーが2011年8月に実施した「タバコ税増税後1年 全国喫煙者追跡調査2011」によれば、2010年10月以降に禁煙に挑戦した人は喫煙者の35.1%いたが、そのうち74.6%が「値上げで禁煙を決意した」と回答しており、たばこの価格の値上げが禁煙に影響を及ぼしている可能性が示唆された。「国民健康・栄養調査」では2010年調査では喫煙男性の35.9%、喫煙女性の43.6%が禁煙したいと回答しており、2014年調査よりも割合が高いことから、たばこの値上げが禁煙のきっかけになりうることは、このことから裏付けられる。

しかし、禁煙に成功した人は全体の13.5%であることにかんがみると、たばこの値上げで禁煙を決意したものの成功した人は、禁煙決意の理由いかんにかかわらず、成功率を一定とすると、全体の1割程度しかいなかったことになる ( $0.746 \times 0.135 \times 100 = 10.071$ )。

禁煙したい喫煙者をどうサポートしていくのか。たばこ支出は単身世帯で多いことから、まわりに支援してくれる人がいることも重要だろう。そのうえで、オセアニアやシンガポール、マレーシアのように、大幅な値上げとともに、日常的に視覚で健康被害を訴える工夫も必要なのかもしれない。

(こたに みどり 主席研究員)